設立　平成24年　5月15日
開塾　平成24年　9月　8日
発行　令和　5年　2月18日
（117号）

中之島ニュース

［事務局］
〒567-0861
茨木市東奈良2-7-10
人間学塾・中之島
古田修平

「掃除とハガキ」木南一志先生

■「かぎやま掃除道」の歌

かぎやま掃除道
心のふるさと　菅刈公園
歴史ある　せごどんの
目黒川　桜の木
中の橋　散歩する人たちの
あいさつに　支えられた
掃除の日

この一月三日に「かぎやま掃除道」の歌が出来上がり公表しました。

「掃除」と「ハガキ」、私にとってこの二つは繋がっています。それはハガキの実践を通じて鍵山イズムの多くの気づきを得たように思えるからです。令和二年の一年間に複写はがき四〇〇〇枚を達成しました。そして令和三年は四一〇〇枚、昨年は三二〇〇枚のハガキを書きました。数字で競うことは意味はないが、結果として生まれてくる数字は大事だと思っています。ただしこれは、たくさん書くから立派というわけではない。しかしながら、やはり数をこなさないと見えてこない。数をこなしてこそ見えてくるものがあり、その取り組みの中身が変わってゆきます。

「かぎやま掃除道」の歌詞にもあるように、毎朝の掃除の折に、季節感の変化～風の流れや鳥の声など、「今日は違う」と気づくことがあります。同じ所を同じように毎日毎日掃除しているからこそ、その僅かの違いに気づくこともできる。日々の掃除をする中で感じる力を育てていただいたように思います。

■道徳なき経済は犯罪である

二〇二五年日本は立ち上がるだろう、その再起再生の原動力とは？それは二宮尊徳翁の考え方であると、森信三先生は予言されました。尊徳翁の考え方のなかに「至誠・勤労・分度・推譲」があります。これがどういうことなのかを、自分なりにつかみ取ることは掃除の道と同じではないかと感じています。そして「道は書物にあらずして、行いにあるなり」（『二宮翁夜話』）、道とは、実行するからこそいろんなことに気づかされる。新しい自分を発見していくことが、少しずつ生き方を掘り下げていくきっかけになるのではないでしょうか。

掃除を続けていると、いろんなやり方・技術も教わるのですが、それは何回も何回も実行して初めてようやく自分の身につくようになります。毎日の複写はがきを続けていくことも、それに通じると実感しています。

「道徳なき経済は犯罪である。経済なき道徳は戯言である。」（『二宮翁夜話』現実の世界で今日の飯が食えるかどうか。それは皆その人の考え方・取り組み方にかかっているということです。経営者ならば、利益がないと会社は成り立たない。しかし利益だけを追いかけると、いずれは犯罪につながっていく。大企業のデータの改ざん等報道されるたびに道徳が失われていると感じます。

■「鍵山ノート」から

鍵山相談役が講演のたびにお持ちになっておられた「鍵山ノート」。どのページもいたるところにびっしりと記されています。

その中で「努力は手段ではない」とあります。目標を定め懸命に努力をするとき、その目的が「幸せになりたいから」だとしたら、その日々重ねていく努力は、幸せを得るまでの間は「不幸」だということになってしまう。幸せを得るまでの間は不幸な状態を積み上げていくことになる。努力すること自体を「幸せ」だと感じる努力の仕方に変えないと、その努力は不幸を積み重ねていく結果につながる、と書かれてありました。努力は手段ではない。この努力がどのように実るのか？それには、努力できたことを喜べること。努力を喜び、「あぁ今日はこのようなことができてよかったな」と思える日を積み上げていったときに、「幸せ」は逆に向こうからやってくるものではないでしょうか。

日々の掃除も、毎日続けていると、むなしい日も気分良い日もあります。日々の努力を幸せに導いていくために一番大切なことは、自分の機嫌を自分でとる、ということ。「機嫌よく生きる」、そういう自分でどう過ごしていくか。日々の掃除は、自分の機嫌の物差しになります。掃除をしながら、自分ながらによくやった、と思えたり、まだまだだな、と顧みたり、その繰り返しです。

道は書物の中でなく、行いにあるのならば、自分自身が気がつき、実行していくこと。それを自分のなかでどう花開かせていくか。書物や人に教えてもらうのではなく、そういう気づきを自らが得る、ということが大切なのです。

（抄録　中川千都子）

グループ討議　1月14日

◆木南一志　先生

Aグループ（リモート）
・道は書物にあるのではなく実行の中にある。
・志は師によって立つ。憧れの角度。真下に立つ覚悟が必要。
・「かぎやま掃除道」の歌に感動。特に五番と六番がいい。

Bグループ
・歌に感動。
・努力は手段ではなく、努力する過程が幸せ。光を見つけることが大切。
・憧れの角度。真下にいる全てを受け入れる覚悟が必要。

Cグループ
・道は書物にあらずして、行いにあり。
・掃除は平和の礎となる。
・努力の中に幸せを見出す。

Dグループ
・努力は手段ではない。
・例外をつくらない。
・道は書物にあらずして、行いにあり。

Eグループ
・努力は手段ではない。
・実力がない人がやると間違いが起こる。基本が大切。
・掃除を通して日本を良くするという鍵山先生の考え方に感動。

（鍵山秀三郎相談役テーマソング）
かぎやま掃除道

2020　8.31
木南一志作詞
中村芳明作曲

1　心のふるさと　菅刈公園
歴史ある　せごどんの目黒川
桜の木　中の橋
散歩する人たちの
あいさつに　支えられた
掃除の日

2　全国の仲間が　集う場所
菅刈公園　目黒川
場を清め　心磨く
ホウキを持つ手　チリトリに
背中で伝えていく
掃除道

4　トイレ掃除で　理想の会社
つくりだそうと　ひたすら励む
知らぬ顔　決めこんで
荒んだ社員も　数多く
少しずつ　少しずつ
光り出す

5　交通安全　黄色のボウシ
子どもたちの幸せに
学校のトイレ
ピカピカに磨き上げ
先生と一緒に感動を
学びの原点はここにあり

寺田一清先生偲ぶ会　開催

令和５年１月８日（日）岸和田市立福祉総合センターにおいて、岸城読書会４００回記念として、人間学塾・中之島と共催で寺田一清先生偲ぶ会が開催され、人間学塾・中之島からの世話人をはじめ多数の方が参加されました。

当日は、人間学塾・中之島をはじめ岸城読書会など約４０名の方にご参加いただきました。

今般、人間学塾・中之島を創設された寺田先生の偲ぶ行事を実施するにあたり、寺田先生が設立された岸城読書会も４００回記念行事と共催して偲ぶ会を開催することとなりました。

まず、寺田先生の墓参を希望される方に、お集まりいただき、先生のお墓に手を合わせました。

偲ぶ会では、全員で黙とうの後、寺田先生がつくられた「先師に捧げる歌」を斉唱し、改めて先生への想いを共有しました。

人間学塾・中之島の中川代表をはじめ、各読書会など代表の方々からご挨拶のあと、参加者全員から寺田先生へのメッセージを頂きました。

寺田先生とのエピソードや教えなどそれぞれの方々の熱い思いがひしひしと伝わってきました。改めて、寺田先生の偉大さ、慈悲深さを実感することができました。

その後、会場を移し、寺田先生がよく行かれた居酒屋にて交流会を開催しました。先生がこよなく愛した「ごより豆」などをつまみに参加者で思い出を違った形で語り合うことができました。さらにもう一軒も先生の行きつけへ…何と寺田先生のお子様とも遭遇したのでした。

当日、お越しいただいた方々、準備をお手伝いして頂けた方々に厚くお礼申し上げます。寺田一清先生は永久に不滅です。　世話人　西村俊幸

寺田先生に導かれて　③　近藤宏枝

「生き方」の根本義

寺田先生がご尽力された「岸城読書会」は、令和四年末で四〇〇回を迎え、年頭には「寺田一清先生を偲ぶ会」と銘打たれ、門下生が和やかに集いました。まだまだ足元にも及びませんが、私が世話人をしております「四国中央読書会」は、今年一月をもって十年を迎える事が出来ました。

それは平成二十四年秋頃に先生から「お掃除のお仲間と、読書会を立ち上げなさい。」と強く勧められたのです。前年に「四国中央掃除に学ぶ会」が発足、私も参加していたことをご承知の先生は「機は熟した」と考えられたのだと思います。もちろん返事は「ハイッ！」しかありません。十二月八日「人間学塾・中之島」の研修会場で発会は翌年一月六日と決まりました。

発会の日は寺田先生に四国までお越し頂き「三十名は集めたいなあ。」という先生の希いは三十八名の参加で叶えられ、満面の笑顔の集合写真が残されています。そして会報誌の先生の寄稿文には、次の教えが記されていました。

「森信三先生の教えの根幹は（一）「人生二度なし」であり、人生限りありでありまして、人生いかに生くべきかを自らに問う、根源的教えであります。（二）第二に、死生即賜生であり、賜りたる生命（いのち）であります。天からこの地上に派遣された生命であります。（三）第三に賜生即至誠であり、使命を持って貫くべきいのちそのものであります。死生＝賜生＝至誠を貫くものを確認頂きたいものであります。」

どんな時も寺田先生は、私達を正しい道に導いて下さっているのです。そこにはいつも慈悲の心が溢れていました。

私のハガキ道

五分の時間を生かすために

町田豊彦

私が最初に書いた複写ハガキの日付は平成二十七年十一月二十三日です。約八年前から五十枚綴が九冊残っていますので、書き損じ含めて約一週間に一通のペースになります。一時は一日一信と意気込んだものの続かずに、恥ずかしながら習慣とはなっていません。

キッカケは人間学塾での坂田道信先生の講演でした。「ハガキはへたくそな方が良い相手もその方が安心する。」そこからお世話になった方々へのお礼や報告を交わす中で様々なおハガキを頂いています。

毎月休まれる事なく活字でご自分の経験からの学びや思いを綴られたハガキに頭が下がり有難く思い、額に収めておきたいような丹精な絵手紙に家族で感動したり。背筋が伸ばされる見事な文面にうなることもあります。ハガキ道の継続と、丁寧さと奥深さの本質を学ぶ思いです。

限られた紙面の中で相手を思い浮かべて、伝えたいことを明確にして言葉を選び丁寧に書く。この時間は集中力や自分の感情を落ち着かせ心を整理する訓練になると思います。

「五分の時間も生かせぬ程度の人間に、大したことは出来ぬと考えてよい」この森信三先生の言葉通りにハガキを書き上げるにはまだまだ修行不足ではありますが、子曰、「これを知るものはこれを好むものに如かず。これを好むものはこれを楽しむ者に如かず。」の論語の教え通りに、心からハガキを楽しめる様になるまでコツコツと続けていきたいと思います。ありがとうございます。

◇塾生コラム　掲載します。

《人間学塾・中之島》次月日程

高野山宿泊研修

上記地図　参照

◆日程　３月11日（土）～12日（日）

◆場所　本王院

◆講師　白駒妃登美先生

天明茂　先生

◆費用　塾生　１万５千円

◇筆ペン忘れずに・・・

記事　寄稿　大募集！

中之島ニュースでは記事・寄稿を大募集しています。

編集部アドレス

2012nakanoshima@gmail.com